



呉トピックス

三高支店 ふれあい感謝祭

JA三高支店は女性部三高支部と共に12月5日、同支店で三高支店ふれあい感謝祭を開催しました。地元の新鮮野菜、女性部の炊き込みご飯・おはぎ・豚汁とJA職員の焼きそばを販売しました。抽選会も行ない、多くの来場者で盛り上がりしました。平岡支店長は、「地域の皆さんに大勢来ていただき、触れ合うことが出来てよかった」と話しました。



▲来場者で賑わう三高支店

「広甘藍」の収穫・販売体験 呉市立明立小学校

呉市立明立小学校4年生30人は12月11日、呉市郷原町で地元の伝統野菜「広甘藍」の収穫・販売を体験しました。



▲倉西さんと一緒に収穫する児童

廣カラン生産組合の倉西大助さんの畑で生産者や呉市職員、JA職員に手伝ってもらいながら包丁でひとつひとつ収穫し、重さを計り階級ごとに選別しました。収穫直後の新鮮な生の「広甘藍」を試食した児童は「普通のキャベツとは甘さが違う。ロールキャベツにして食べてみたい」と広甘藍を抱えて笑顔で話しました。12日にはJA呉グリーンセンタールでレジ打ちや梱包、自作のポップで来店客に呼び掛けるなど商品PRと販売体験を行いました。

葉つきみかん出荷

JA下島集出荷場で12月16日、「葉つきみかん」の選果・出荷を行いました。

葉っぱを3・4枚残して出荷するため、機械での選果や箱詰めができず、すべて手作業で行なっています。呉市下蒲刈地区は県内最大の生産地で約150戸が生産しています。今年は猛暑の影響が心配されましたが、適度に雨が降ったため玉太りも良く昨年より2t多い18tが広島や関西など全国に出荷されました。広島果実連の石川技師は「縁起物としてお正月飾



▲手作業で行われる選果

正月彩るミツバの出荷 (田中農園)

江田島市の田中農園では、12月25〜29日にかけて正月の需要に向けてハウス栽培された約1万束(1束50g)のミツバを出荷しました。

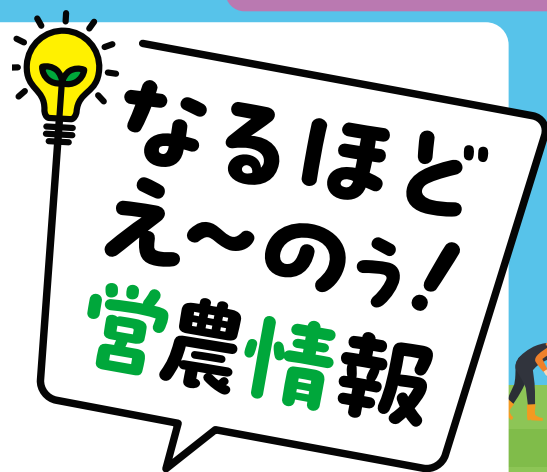
同農園では市場からの要請を受け、2016年からミツバの栽培に取り組んでいます。10月下旬に播種し、水耕ベンチで約3カ月間かけて育てられたミツバは、約1週間ですべての収穫・出荷作業を終えます。作業は全て手作業で、「田中農園」の文字が入ったオリジナルステッカーを貼った袋で広島市場へ出荷されています。



▲すべて手作業で行なわれているミツバの収穫

ツバに仕上がった。家庭で正月の雑煮などに入れて楽しんでほしい」と話しました。

りに利用していただくほか、食べても非常においしいです」と話しました。



落葉果樹

■共通事項

▽せん定の見直し

結実する枝を若い枝に更新していく必要があります、花芽の量も多くなりすぎないように調節しながらせん定しましょう。

せん定が終わった樹であっても、角度を変えて見ると、重なっている太枝や、側枝を見落としていることがありますので注意が必要です。枯れ枝や病害虫被害枝を除去したと同時にせん定枝や落葉した葉も集めて園外に持ち出しましょう。

■イチジク

せん定は、3月に入ると根の活動が始まるので、遅くとも2月中には必ず終えるようにしましょう。

▽園内の清掃

せん定枝・葉・残果は、病害虫の発生源となりますので、園外に持ち出して処分しましょう。

▽苗の植え付け

植え付けする前に、園地の適地性を確認しましょう。

イチジクの根は、酸素要求量が高く、耐水性の弱い作物です。

また、乾燥にも弱いので、水源の確保が必要となります。

園地を選定する場合は、これらの事を考慮し植え付けを行ないましょう。

植栽間隔は、樹との間隔6m×6mを標準にし、植え付け2週間前までには準備しましょう。

植穴の大きさは、直径1m、深さは30〜40cmで、そこへ完熟たい肥(商品名:こだわり健肥)・石灰質資材・ヨウリンなどを投入し、土とよくかき混ぜておきます。人力でかき混ぜるには労力がかかりますので、管理機などを活用しましょう。

堆肥の中でもバーク堆肥はモンパ病の発生源となることがあるので、イチジク園には施用しないように気を付けましょう。

▽挿し穂の採取および貯蔵

自家育苗する場合には、着色・果実肥大の良い健全な樹から穂木を採取します。

一年生枝(昨年春に発芽した枝)で節間の短い充実した枝を選びましょう。

挿し木の時期は3月中下旬ですので、大切に貯蔵します。

貯蔵方法は、ポリシートで包み温度変化の少ない冷暗所で貯蔵します。

くれぐれも挿し穂が乾燥しないように注意しましょう。

▽排水路の整備

水田跡に植栽している場合など、水はけの悪い園地は、溝切などを行ない、排水対策を行ないましょう。

■カキ

せん定の見直しと同時に、粗皮削りを実施します。主幹部や太い枝の分岐部に、ヘタムシ・コスカシバ・カキノキマダワメイガなどが越冬していますので、粗皮削りが有効となります。芽が動き出してからでは、樹体が衰弱するなど悪影響を及ぼす可能性があります。休眠中に作業を終えるようにしましょう。

■モモ

せん定を見直す際には、主枝・亜主枝・側枝の配置に十分注意しま

しょう。

モモの場合、特に重なり枝などで日照不足になると、新梢の生育が大変悪くなり、枝枯れやはげ上がりが増え、側枝の更新がやりにくくなり、日焼けが発生し枯れこんだりします。

■スモモ

日陰ができると枯れ枝が増加しやすくなります。

樹冠内部まで光が入るようにせん定を行ないましょう。

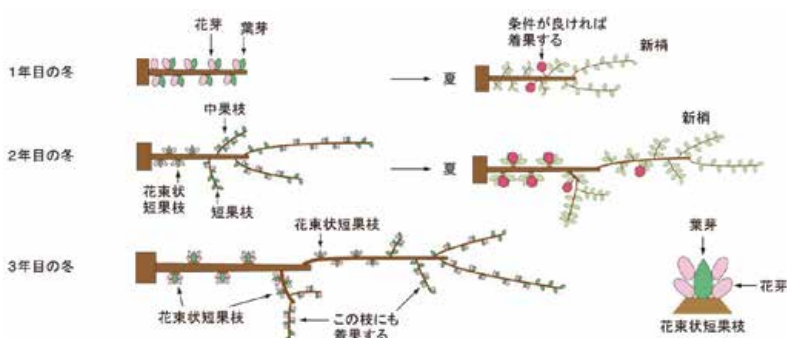


図1 スモモの花芽形成と結実

■一言

今月もせん定作業が中心となります。来月になると樹液の流動が始まり、発芽期を迎えます。せん定が遅れると貯蔵養分の浪費につながりますので、今月中にはせん定が終了するようにしましょう。昨年状況を思い出しながら作業性向上を優先にせん定を行ないましょう。

家庭菜園

2月の家庭菜園は、春から夏にかけての野菜作りの準備を始める大切な時期です。まだ肌寒い日もありますが、防寒対策をしっかりと行なえば、様々な野菜を育て始めることができます。

●2月にすべき主な作業

2月に行なうべき作業は大きく分けて2つあります。

1 土づくり

堆肥や有機物を混ぜ込む土づくりは、種まきや植え付けの2〜3週間前には済ませておく必要があります。そのため、2月中に始めることが大切です。

・寒おこし（天地返し）…土を深く掘り返して混ぜることで、土の偏りをなくし、病原菌や害虫対策、

水はけの改善を図ります。

・土壌改良…ジャガイモは酸性の土壌を好みますが、多くの野菜は弱酸性の土壌を好むため、土壌酸度計で測定し、必要であれば苦土石灰などを施して調整しましょう。

2 夏野菜の育苗

ナス科の野菜（ナス、ピーマン、トマトなど）は、苗から植え付け可能になるまでに2ヶ月以上かかるものもあります。種から育てる場合、4月の植え付けに間に合わせるために2月から育苗を始めるのがおすすめです。

・保温対策…2月はまだ気温が低いため、暖かい室内で種をまくか、保温設備を利用して苗を育てましょう。ビニールをかぶせる、家庭菜園用の温室を利用するなどの方法があります。

・栽培スケジュール…限られたスペースで効率よく野菜を育てるために、年間を通じた栽培スケジュールを立てることが重要です。連作障害を避ける計画も立てておくとい良いでしょう。

●2月に植えられるおすすすめ野菜

2月に家庭菜園で植えられる野菜はたくさんあります。寒さに比較強い葉物野菜や根菜類、そして成長に時間がかかる夏野菜の育苗を始めるのに適しています。

葉物野菜

・キャベツ…温室で苗を育ててから畑に植えるのがおすすめです。発芽から収穫までが比較的短い種類もあります。

・ブロッコリー…キャベツと同様に、温室で苗を育てると良いでしょう。発芽適温は20〜25℃です。

・リーフレタス…結球しないレタスで、根元を残して収穫すれば何度も楽しめます。栽培期間が短く、育てやすいのが特徴です。

・ホウレンソウ…酸性土壌を嫌うので、土のpHを中性に調整すると良いです。有機石灰や木灰がおすすめです。

・コマツナ…土壌への適応性が高く、栽培期間も短いので初心者にもおすすめです。

・シュンギク…独特の香りが特徴で、鍋料理などにぴったりです。

根菜類

・ジャガイモ…寒さに強く、2月下旬から植え付けが可能です。幅広い料理に使えます。

・ダイコン…2月に種まきができます。

・ハツカダイコン（ラディッシュ）…短い期間で収穫でき、プランターでも育てやすい人気の野菜です。

・ニンジン…2月に種まきができます。

その他

・エンドウ（サヤエンドウ）…未熟なさを収穫するサヤエンドウも2月に植え付けが可能です。

・ナス・ピーマン・トマト…これらは育苗に時間がかかるため、2月から種をまいて苗作りを始めるのが良いでしょう。

●栽培の管理ポイント

2月に植える野菜の栽培では、温度管理が特に重要です。

・保温対策…種まきの際は、育苗ポットにビニールをかぶせたり、家庭菜園用の温室を利用したりして保温しましょう。畑やプランターに直接種をまく場合も、ビニールなどで保温します。

・霜対策…寒い時期は、敷きわらなどを使得マルチングを行ない、霜対策をしましょう。

・防虫対策…発芽後は、不織布などをかぶせて防虫対策をします。保温効果も期待できます。虫の被害が少ない春キャベツも、防虫ネット対策することで比較的簡単に育てられます。

・連作障害の回避…同じ科の野菜を同じ場所が続けて栽培すると、病気になったり生育が悪くなったりする連作障害が発生しやすくなります。連作障害を防ぐためにも、異なる科の野菜を植えることや、適切な間隔を空けることが大切です。

ときめき ♡ 女性部通信

新年に向けて各地でおせちと押絵の講習会

J A女性部呉地区本部では、新年を迎える準備として各支部でおせち料理や干支の押絵の講習会を行いました。おせち料理の講習会では、「家の光」レシピと家の光講師（やのはらかずみさん）の特別レシピを組み合わせた調理をしました。また、押絵の講習会では、新年の干支である馬をかたどったお手玉などを作成しました。参加した部員の方からは「年末の忙しい時期でも、皆で料理をして楽しかった」と笑顔がこぼれました。



鹿川支部



広北支部の大きな押し寿司



中町支部



中町支部のおせち料理



深江支部の押絵（お手玉）



音戸支部波多見グループの押絵



広支部広西グループ